実 践 報 告

児童の思いや願いを表現につなげる造形遊び
－材料と場所に働きかける4年生の造形遊びを通して－

髙添　比登美*

Artistic Play Activities for enhancing Children to Express Their Feelings and Wishes: Through the Fourth Graders to Session, "Working on Materials and Place"

Hitomi TAKAZOE*

【要約】
造形的な創造活動を行う過程で，児童が表したいことを発想・構想し，表したいことに応じて材料や用具，技法などを選択する思考力・判断力・表現力を児童に育むために，材料と場所に働きかける造形遊びを中心とした題材を仕組んだ。これら6事例について，児童の発想と表現活動の変化に着目し，教師の支援や言葉かけなど具体的な支援の在り方を探った。

【キーワード】
題材，材料，場の設定，言葉かけ，発想，働きかけ

1．研究の目的

本校図画工作科では，本年度より児童が造形活動を行う過程で，児童が表したいことを発想・構想し，表現・意図に応じて材料や用具，技法などを選択できる思考力・判断力・表現力を身に付けるために，造形遊びを中心とした題材設定を行っている。今年度は，造形遊びを対象とする研究の初年度として，児童への場の工夫や言葉かけの工夫を中心に行い，児童が材料や場所へどのように働きかけていくのか，児童の発想と表現活動の変容に着目しながら，教師の具体的な支援の在り方を探った。本稿では，支援の着眼について整理し，指導法を改善する糸口としたい。

2．研究の内容及び考察

図画工作科の内容は，A表現とB鑑賞の領域に分かれ，さらにA表現は，「(1) 材料を基に造形遊びをする活動，(2) 絵や立体，工作に表す活動」の主に二つの観点で示されている。ここでは，(1) の6事例について，3視点から考察し，教師の支援法を探る。

(1) 実践の内容

中学年の造形遊びの内容は，主に「身近な材料や場所などを基に発想してつくること」である。造形遊びの経験を積むごとに，児童の活動が活発になっていった。しかし，同時に教師の言葉かけや児童が場所に働きかける「めあて」の設定の課題も明らかになった。児童に対して恣意的な指示を出さずに，児童の発想を自然と引き出す言葉かけや場の設定に試行錯誤しながら，造形遊びの授業に取り組んだ。

＊佐賀大学文化教育学部附属小学校

4年生の前期に取り扱った題材と主な材料，場の設定，児童の主な発想の変容は，次の表1の通りである。教師が設定する題材・材料，そして活動を行う場所で，児童の発想や発言が変容していった。

表1　本学級が行った主な題材・材料，場所，実施時期と児童の発想・働きかけ

<table>
<tr><th rowspan="2">時期</th><th colspan="3">教師の計画及び働きかけ＝T</th><th rowspan="2">児童の発想・場所への働きかけ＝C</th></tr>
<tr><th>題材名＝S</th><th>材料＝M</th><th>場所＝P</th></tr>
<tr><td rowspan="2">四月</td><td>ロープワールド…3(1)</td><td>タフロープ</td><td>多目的室</td><td>クモの巣，泉，巻き付ける，壁飾り</td></tr>
<tr><td>つなぐんぐん…3(2)</td><td>ストロー</td><td>図工室</td><td>ピラミッド，人形，ロボット，ロケット</td></tr>
<tr><td>五月</td><td>新聞紙で〇〇…3(3)</td><td>新聞紙</td><td>図工室</td><td>丸めて積み上げる，部屋をつくる，〇〇ごっこ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">六月</td><td>キラキラ世界…3(4)</td><td>アルミホイル</td><td>図工室</td><td>昇り竜，カラオケボックス，天の川，インテリア</td></tr>
<tr><td>遊具が変身！…3(5)</td><td>マルチシート</td><td>屋外・遊具</td><td>秘密基地，毛虫，光の川，ステンドグラス，灯台</td></tr>
<tr><td rowspan="2">七月</td><td rowspan="2">光と色の
ハーモニー…3(6)</td><td rowspan="2">色セロハン
光を通す物
光を反射させるもの</td><td>図工室</td><td rowspan="2">光を通す，光を反射させる，壁飾り，ステンドグラス，色水遊び，影絵，ライトの光や日光で映し出す</td></tr>
<tr><td>図工室
その周辺</td></tr>
</table>

※S，M，P，T，Cについては，次項の「3　授業の実際」の6事例の中で具体的に示している。

(2) 考察

ア　題材＝S・材料＝M

中学年の内容である「身近な材料や場所などを基に発想してつくること」に即した「造形遊び」とは何か。題材設定や教師が準備した材料で児童の活動がどのように広がっていくのか予測できないまま，題材を試していった。「身近な材料を基に発想してつくる低学年と中学年との造形遊びの違い」の差を出すために苦慮したが，材料の特性を生かして，「図工室を〇〇にしよう」「〇〇を変身させよう」などの場を意識させる「めあて」や児童が場に働きかけやすい題材を設定すると，児童の活動が広がっていった。

6事例で扱った題材・材料の特性と功罪については，以下の表2に示している。中学年の内容である「身近な材料や場所などを基に発想してつくること」にふさわしい題材かどうかの判断基準にもつながる。

表2　題材・材料とその特性と功罪

題材名＝S	材料＝M	特性	功罪（○良さ　▲難点）
ロープワールド …3（1）	タフロープ	・様々な色がある。 ・対象物に巻き付ける。 ・壁から壁に張る。 ・結ぶ・交差させる。	○教師の言葉かけや場の設定次第で，場所や空間を意識ながら活動できる。
つなぐんぐん …3（2）	ストロー	・様々な形状がある。 ・様々な色がある。 ・つなぎ合わせる。 ・組み合わせる。 ・切る	○比較的安価で，気軽に手に入り，加工しやすい。 ▲自分の狭い範囲で活動が収まる。
新聞紙で○○ …3（3）	新聞紙	・破る・裂く ・丸める　・棒状にする ・覆う　・敷く　・包む	○収集しやすい。 ○言葉かけ次第で場に働きかける活動になる。
キラキラ世界 …3（4）	アルミホイル	・破る　・裂く ・穴をあける。 ・丸める　・絞る ・覆う　・包む ・ペンで書き込める。	○比較的安価で手に入る。 ○壁や天井を覆ったり，光に反射させたり場を意識できる。 ▲机上で細かい活動になる恐れもある。 ▲形は元に戻りにくい。
遊具が変身！ …3（5）	マルチシート（黒・透明）	・黒，透明がある。 ・覆う　・切る ・穴をあける。 ・ペンや色セロハンで装飾できる。	○黒色は光を遮り，透明なものは透過性があるので，目的に合わせて選択できる。 ○1本50mで，ダイナミックな活動になる。
光と色のハーモニー …3（6）	色セロハン 光を通す物 光を反射させる物	・窓や壁を装飾する。 ・地面や壁，天井に光を映し出す。 ・透明な容器で色水を入れ，並べる。 ・ＣＤやアルミホイルで反射させる。	○光を意識することで，場所を意識する活動につながる。 ○場所を意識しながら，選択して材料を選ぶことができる。

イ　教師の指導（①場の設定，②言葉かけ）＝Ｔ

造形遊びでは，教師が恣意的な言葉かけを行うと，児童の活動を誘導する活動になる。児童の発想や活動の基になる自然な言葉かけを目指したが，初めの頃は，恣意的な言葉かけになるのではないかと恐れ，うまく言葉かけをできずにいた。児童の活動や発想をすべて認め，称賛することで，児童の活動も次第に広がっていった。また，室内での活動を，屋外に広げた頃から，児童の活動の幅が多彩に広がっていった。教師も場を意識させる言葉かけが自然とできるようになっていった。題材ごとの教師の指導［①場の設定，②言葉かけ（「」内は，児童に示した「めあて」）］は，以下の表3の通りである。

表3　題材と教師の指導（①場の設定，②言葉かけ）

S＝題材名	T＝教師の指導	
	①場の設定	②言葉かけ及び「めあて」
ロープワールド …3（1）	多目的室 広い。活動しやすい。 机や椅子を目的に合わせて用意する。	「タフロープでどんなことができるかな」 ・壁を飾ることができるね。 ・クモの巣のように，なったね。 ・泉のように，置くことができたね。
つなぐんぐん …3（2）	図工室 ・補助材を用意する	「ストローをつないだり，組み合わせたりしてどんなことができるかな」 ・そんな組合せがあるんだね。 ・つなぎ合わせると長くなるね。
新聞紙で○○ …3（3）	図工室 ・大きな机	「新聞紙でどんなことができるかな」 ・丸めて高く積み上げた後，どうするの？ ・体を覆うんだね。 ・「○○ごっこ」は，だめだよ。
キラキラ世界 …3（4）	図工室 ・大きな机 ・1本8mを一人一つずつ	「アルミホイルで図工室を変身させよう！」 ・絞って次はどうするの？ ・色セロハンと組み合わせて，きれいな壁飾りができたね。 ・一面が銀世界だね。
遊具が変身！ …3（5）	屋外・遊具 ・黒いマルチシート ・透明マルチシート	「マルチシートで遊具を変身させよう！」 ・遊具がゴツゴツした巨大な毛虫のようになったね。 ・どんな秘密基地になるのかな？ ・世界に一つだけの灯台ができたね。 ・黒色は，中が真っ暗になるね。透明は，色セロハンの色を通すね。
光と色の ハーモニー …3（6）	図工室とその周辺 （図工室） ・ライト6台（光源） ・大きな机を2段重ね ・脚立　・吊るしたあみ ［図工室周辺（屋外）］ ・乾燥棚　・脚立 ・紐をフェンスに張る ・長机2台	「身近な場所を光で変身させよう」 ・ライトに写し出された天井が赤になったね。 ・素敵なインテリアになったね。 ・影絵遊びができるね。 ・色水の色が地面に映ってきれいだね。 ・色水を並べるときれいだね。 ・色セロハンを付けた紐を張ると，日光に映し出されて地面がカラフルになるね。

ウ　児童の発想・場所への働きかけ＝C

初めは，材料だけからの発想が多く，机や床の上の自分の手の届くごく狭い範囲での活動が多かった。ロボットや人形，「○○ごっこ」をする活動が大半を締め，苦慮した。しかし，題材・材料，場の設定，言葉かけなどの総合的な要素から児童の発想は広がることを実感した。最後の題材である「光と色のハーモニー」の導入では，題材・材料の造形的要素に目を向けさせる言葉かけや屋外に目を向けさせる言葉かけを行い，図工室の机を2段重ねにした場の設定を行うと，児童は高低の空間を意識できるようになり，活動場所を選択し，材料や場所を試しながら活動を広げることができるようになっていった。

以上のことから，Sについては，「①場を意識させるための『めあて』，②児童が場に働きかけやすい題材・材料」，Tについては，「①児童の活動や発想への称賛，②場を意識させる言葉かけ」，Cについては，「①導入時の題材・材料の造形的要素の確認，②教師の場の工夫した場の設定」などが支援法の工夫点として確認することができる。

ここまでが，6事例の考察で示した支援の在り方である。引き続き自らの支援法を精選し，正確，的確，明確になるよう研究を継続していきたい。

3．授業の実際

以下，実践授業の6事例を考察の3観点で示す。3観点とは，題材＝S・材料＝M，教師の指示（①場の設定，②言葉かけ）＝T，児童の発想・場所への働きかけ＝Cである。（実践事例の中に記号等で示している。）

(1) S＝題材名「ロープワールド」　M＝材料：タフロープ　P＝場所：多目的室　時期：4月

「多目的室をタフロープで変身させよう?」という「めあて」の基，タフロープを張ったり，壁に装飾したりして汗をたくさんかきながら，造形遊びを楽しんだ。「こんなに自由な図工，ずっとしたい！」「思い付くままにしてみたよ！」と興奮気味だった。とても嬉しそうに教師に報告しに来る児童の姿が見られた。

＜C＝児童の発想（吹き出し部分）＞

図1 タフロープをクモの巣のように張り巡らす児童

「これ，全部使っていいんですか？」

緑と青のロープで水がわき出る泉です。

図2 タフロープを泉に見立てる児童

図3 テープを下から寝転がって眺め，浸っている児童

図4 タフロープでくるまれた椅子

図5 最後に大量のタフロープに埋もれる経験をした児童

≪成果と課題≫

大量の材料との出会いに児童の意欲が高まる。しかし，褒める・認めるなどの称賛の言葉かけができない。教師自身から否定・制限する言葉が出て，なかなか手立てを打てなかった。

(2) S＝題材名「つなぐんぐん」　M＝材料：ストロー　P＝場所：図工室　時期：5月

日常では，飲み物を飲むためのストローを造形的に変化させる。「ストローをつないだり，組み合わせたりしよう」をめあてに，児童はストローでどんなことができるか考えながら活動した。また，児童の造形活動がさらに広がって活発になるように，今回は，図10のような補助材を使った。

図 6 ストローの量に「おぉ～！」と歓声をあげる児童

図 7 早く活動に移りたくて材料に進む児童

図 8 ストローでできることを考えながら活動する児童

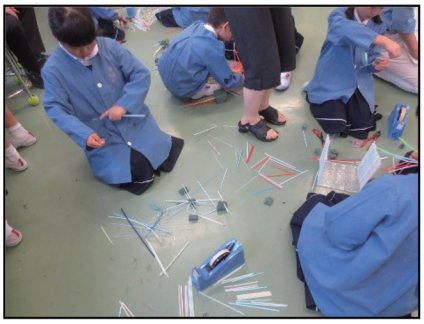

図 9 自分の思いに浸りながら，活動する児童

図 10 今回使用した補助材

≪課題≫

否定的・制限する言葉かけはしないことを意識し過ぎて言葉が出なかった。活動も狙ったように広がらなかった。また，活動を広げる補助材が主役になってしまった。タイミング，補助材の種類・量等の課題も分かった。

(3) S＝題材名「新聞紙で○○」　M＝材料：新聞紙　P＝場所：図工室　時期：5月

前題材「つなぐんぐん（ストロー）」からの課題である「言葉かけ」と「児童の活動の広がり」をどうすればよいのかを考えながら，この題材に入った。めあては，「新聞紙でできることは，どんなことだろう」である。新聞紙は児童に呼び掛けて自宅から気軽に持って来ることができる，取り組みやすい題材である。新聞紙の性質は，「つなげる，広げる，棒状に丸める，球状にくしゃくしゃに丸められる，破る・裂くことができる，折ることができる」など児童が扱いやすい題材でもあった。

＜C＝児童の発想（吹き出し部分）＞

図 11 児童が持参した大量の新聞紙

図 12 新聞紙を丸く丸めて天井まで積む児童

図 13 新聞紙を棒状にして…考える児童。

図 14 自分の部屋をつくる児童

始めは，壁をつくろう。

新聞紙をマントにして…。

図 15 体に巻き付けて続きを考える児童

≪成果と課題≫

教師自身の「否定的・制限する言葉かけ」は，出なくなった。称賛する言葉を意識的に掛ける努力をした。場所に働きかける児童もいる一方，個人で「〇〇ごっこ」になって衣装で終わる児童もおり，「活動の広がり＝場を意識させる『めあて』の設定」であると気付かされた題材であった。

(4) Ｓ＝題材名「キラキラ世界」　Ｍ＝材料：アルミホイル　Ｐ＝場所：図工室　時期：6月

前題材「新聞紙で〇〇」の反省を基に，「キラキラの世界」としてアルミホイルを題材にした。アルミホイルは，比較的安価で手に入り，接着剤がなくてもいろいろな形状で保つことができる点が長所である。短所は，一度小さく固めたら基に戻らず，やり直しが効かない。そのような材料の特性を生かした造形遊びに挑戦した。前題材の反省を踏まえて，今回の題材のめあては，「アルミホイルで図工室を変身させよう」とし，児童に場を意識させるものにした。

＜Ｃ＝児童の発想（吹き出し部分）＞

1 人 1 本以上もアルミホイルを使えることはないよ！急いで！急いで！あなたはあっち！

図 16 図工室をどうしたらキラキラ世界にできるか考える児童

とにかく窓を覆ってみよう。キラキラ→カラオケボックスだ!

図 17 窓をアルミホイルで覆いながら活動を考える児童

図 18 ペンで装飾した天の川

どんどんしていくうちに，天の川になりました。天の川にペンで描きこんでみると，夜空に輝いているみたい。

先生，ぼく達はアルミホイルをぎゅっと絞って，「のぼり竜」にしました。針金に掛けると生きているようでしょう？

図 19 アルミホイルを細く絞ってつくった昇り竜を図工室に飾る児童

≪成果と課題≫

児童が場所に働きかける活動にするには，めあてが重要だということが分かった。この学習は始めから，複数の友だちと，また，場所を生かして活動することができていた。しかし，椅子に座って机の上でアルミホイルに絵を描く児童も数名おり，この児童らにどのような声かけをしたらよいのか分からなかった。また，終末のふり返りの時に，作品をふり返る鑑賞の評価のようになってしまったことも課題になった。

(5)　S＝題材名「遊具が変身！」　M＝材料：マルチシート　P＝場所：屋外・遊具　時期：6月

児童の造形活動がもっと広がるように，屋外の遊具で行った。題材は，畑に使う一巻50mの黒と透明の2種類のマルチシートである。補助材は，タフロープ，色セロハン，ペンを，接着剤としてセロ　ハンテープ，透明ビニルテープを用意した。今年度初の屋外で，また普段遊んでいる遊具を変身させることを伝えると児童は興奮気味に活動を始めた。めあては「遊具をマルチシートで覆って変身させよう！」に設定した。

＜C＝児童の発想（吹き出し部分）＞

図 20　木陰を使って，秘密基地をつくる児童

図 21　遊具をマルチシートで覆い，毛虫に見立てる児童

図 22　一番高い遊具に登り，シートで覆い，灯台にする児童

図 23　秘密基地をさらに頑丈にする児童

図 24　マルチシートやタフロープを巻き付けられた遊具

≪成果と課題≫

「そんなこともできるの？」「中から見たら，どんな感じ？」など児童に意欲が出る言葉かけをできるようになっていった。児童は意欲的に場所に働きかけ，終末でも「〇〇をしてみたら，意外に色がきれいだった。」など造形的な要素に着目して振り返ることができた。遊具という場所が児童にとって，進んでかかわれるものだったのだろう。ただ，使う遊具や広さを制限して活動させると，遊具全体の様子や他の友だちの活動が確認でき，さらに児童の達成感は高まると感じた。

(6)　S＝題材名「光と色のハーモニー（第1時）」　　時期：7月

M＝材料：光を通す材料…色セロハン，タフロープ，ペットボトル，野菜パック・カップ等の透明容器等，光を反射させる材料…CD，アルミホイル

ア　第1時　P＝場所：図工室

「光を通す透明な材料と光に反射する材料を使って，光と遊ぼう！」というめあての基，児童は光と遊ぶ方法を考えながら活動に取り組んでいた。当日は小雨が降り，外からの弱い自然

光と室内の蛍光灯の明かりだけになったが，わずかな光量に色セロハンを透かしたり，前時で扱った光を反射させるアルミホイルの経験を生かしたりしながら，図工室内で十分に活動した。材料十分な光の量がないままの活動だったので，ライトを数台設置し，人為的に光源をつくり出した。

＜Ｃ＝児童の発想（吹き出し部分）＞

赤いセロハンで包んだら，CD が赤く反射したよ。他の色でも試してみよう。

図 25 CD を色セロハンで覆い，アルミホイルの反射を友だちと一緒に試す児童

先生，CD はいろいろな色に反射するね。これをどうにかできないかな？

図 26 蛍光灯の光をＣＤに反射させて，光の反射する角度や様子を試す児童

アルミホイルを壁に敷き詰めると，壁全体が反射して明るくなるよ。セロハンを斜めに並べてみようかな。何だかおしゃれになってきたよ。

図 27 図工室の壁にアルミホイルを垂らし，その上に色セロハンで装飾する児童

透明な袋の中にいろいろなセロハンを入れてインテリアのようになった。光があってきれいだな。

図 28 窓辺に色セロハンを付けたタフロープを垂らす児童

図工室に張っている針金にタフロープを垂らすとおしゃれなすだれのようになったよ。

図 29 図工室内の針金にタフロープを垂らす児童

黒のマルチシートに穴を空けて色セロハンで覆ってみたよ。強い光があるとどうなるかな。試したいな。

図 30 黒色のマルチシートに穴をあけ，光を通す児童

≪成果と課題≫

児童は，自然と今までの造形遊びでの経験を使っていた。これまでの造形遊びの様々な積み重ね（造形活動）を通して，材料をどのように使いたいのか，ふさわしい場所はどこかなど，表したいことを発想・構想したり，表したいことに応じて材料や用具，技法などを選択したりする力が徐々に身に付いてきていることが感じられた。

イ　第2時　Ｐ＝図工室とその周辺（屋外）

「第1時に活動していた続きをするよ。」と導入で声をかけ，室内には強い光源となる6台のライトや天井まで届く机を2段重ねにした。また，日光が入る図工室の周辺屋外には，脚立や長机，乾燥棚などを設置し，高さに目が行き，児童が材料に合わせて選択して活動できる場の設定にした。室内では，ライトの向きを変え，天井，床や壁に色セロハンを透かせたり，ＣＤやアルミホイルに光を反射させたりしながら，ほとんどの児童が活動した。屋外では，設置した脚立に装飾したり，色セロハンや色水の色を地面に映し出したりして活動していた。

＜Ｃ＝児童の発想（吹き出し部分）＞

ライトを赤のセロハンで覆うと，天井が真っ赤になったよ。他の色でも試したいな。

図 31 色セロハンをライトで透かし，天井に映す児童

日なたの脚立を色セロハンやタフロープで飾ると，地面にきれいな影絵ができたよ。紐を張って試してみよう。

図 32 色セロハンを日光で透かし，地面に映す児童

≪成果と課題≫

児童は，材料に合った場所を選び，光の透過性や反射性の特質を生かしながら，場所に働きかけることができた。また，授業の導入時，活動中，終末では，場所や材料の造形的な要素に触れながら声をかけることができた。今後は，場所に働きかける光以外の題材を探求していく。

４．まとめ

めあての設定の仕方で，材料や場所に働きかける児童の活動や発想は変化する。教師のねらいとめあてを明確にしながら題材を設定すると，教師の言葉がけ，場の設定の仕方など見通しをもてるようになった。また，造形遊びは突発的に行って教師の言葉がけや場の設定ができるようになるのではなく，年間計画の中にしっかりと位置づけ，他の表現や鑑賞活動との兼ね合いを念頭に置かなければならないことが分かった。今後の課題として，中学年で行う材料や場所に働きかける造形遊び，高学年の材料と場所，そして空間に働きかける題材の探求を行っていく。

【参考文献】

・文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説図画工作編．日本文教出版株式会社